

事業報告書（令和5年度）

事業名 音楽と朗読の世界でつながるプロジェクト

団体名 音楽と朗読の会「金星音読団」 担当者名 後藤智子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

2023年5月～2024年6月 第2水曜日定例活動

「林芙美子生誕120年記念イベント」

2023年6月17日（土）広島県福山市尾道市役所

参加メンバー：5人 お客様：200人

尾道市役所で開催された林芙美子生誕120年記念イベントに参加させていただきました。今回のイベントで上演した、「狐物語」「序詞」「鶴の笛」（林芙美子新日本イソップより）は、土堂小学校の4年生とメンバーのお知り合いの岩崎聡子さまが賛助出演してくださり、オカリナ、フルートのメロディー、生演奏、効果音で一期一会の上演作品になりました✨特に、「鶴の笛」で使用される笛のメロディーは、親子メンバーさんの息子さんが作曲、お母さんが演奏したもので、ストーリーを盛り上げました。

イベント会場は、窓から海が見える市役所のイベントホール。まさに、林芙美子さんが過ごした尾道の海を見ながらの発表となりました。



「音楽とお話を楽しむ夏の夜会」

7月15日（土）19:00～20:30 岡山市立操山公民館

参加メンバー：6人 お客様20人

今回は子育て座談会に参加してくださっている方がファミリーで参加してくださいました。

誰でも参加できるコンサートと銘打っておきながら、こちら側の準備はどうなのか？とたくさんや気づかせてもらったイベントになりました。

まず、チラシだけではどんな内容なのか、わかりづらいと気づきました。

サプライズやわからないことが不安な子には、どんな事をするのか、はっきりわかって、参加のしかたも相談できるようなものが必要だと思いました。

会場の暗さも、プロジェクターの見えかたから暗くしていましたが、怖く感じる子もいる

ことに気づきました。

初めての場所、知らない人がたくさんいる場所に抵抗がありすぐに入れない子もいます。

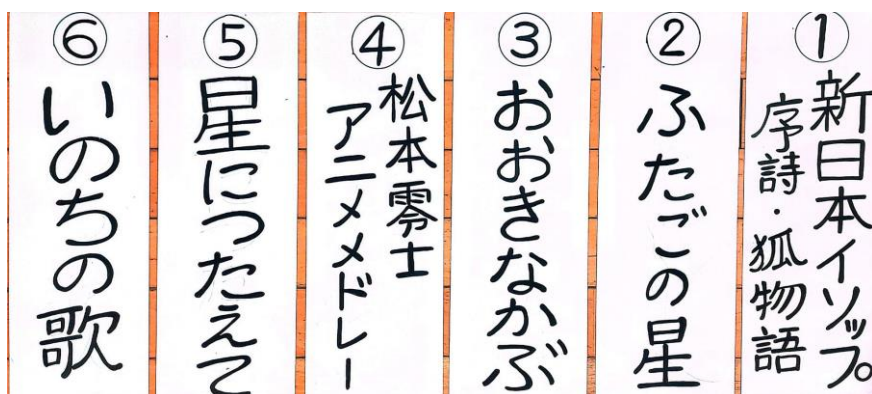
入り口のドアは可能なら開けておくことが必要でした。

もしかしたらしきりを作って、個別部屋風に覗ける場所があったら参加できる子がいるかもしれません。

我が子が小さくたくさんの困り感があったときにはいろいろしていたことを思い出しました。過ぎ去ってしまい、今はどんどん自分達で行動しているので、やってきたことがすっかり抜けてしまっていました。

やりたいが先行してきましたが、見る側の立場も考えていきたいと思いました。

※写真は剥ぎ取り式プログラム。終わった演目を取っていきます。



「ざわつく！夏の音楽&おはなし会in東山公民館」

2023年8月17日(木)岡山市立東山公民館

参加メンバー:6人 お客様40人

雨の中、たくさんの方がご参加くださいました。

ざわつく！の表題をみて下さり、赤ちゃん連れ、事業所のお子たち、子どもたちがたくさん来てくださいました。

「ももたろう」は桃のオカリナを持って和久田さんの導入から🍊合いの手の～はあそれから～の大合唱。

「おおきなななぶ」は、ボディパーカッションを見本に、同じようにリズムを取ろうとみんな真剣な様子。赤ちゃんのむずかる声も効果音です！

「ねこのピート」の初披露。効果音に入れたフレクサトーンが物語を引き立ててくれました。

こちら初披露の「ことばのかたち」

大人向けの絵本だけれど、言葉がステキ、絵がステキ。

息子に読んだとき、この曲が合う、と選曲してくれた曲をメンバーが編曲をしてくれて、朗読に合わせた6分間の音に仕立ててくれました。

休憩のあとは音楽コーナー

東山公民館ならではの三線コーナーには公民館職員さんが参加。「安土屋ユンタ」、「十九の春」、「海の声」、「上を向いて歩こう」と演奏しました。

(様式第 8 号)

これから金星音読団でとりくむ「銀河鉄道の夜」に向けて、「宇宙の音」～「松本零士メドレー」

そしてみんなで踊ろう「パプリカ」、みんなで歌おう「ふるさと」

最後は楽器の体験コーナー

前回操山公民館で入ったり出たりしていた子が、今日はずっと座って参加。最後の楽器体験まで楽しんでくれました。

「ざわつく！」はこれからも使っていきたいワードです。



「ざわつく！アフタークリスマスコンサート in 東山公民館」

2023年12月26日(火) 14:00～15:30 岡山市立東山公民館

メンバー参加:6人 お客様40人

今回も福祉事業所さんにお声かけして、音楽、お話が好きなお子さんたちがたくさん来てくれました。

ざわつく！の題名が試されるように、2才の女の子がステージ上に並べられた楽器や機材に興味津々。できる限りそのままでかかわりながら、それでも触ったらあぶないものもあり、禁止が発令。ざわつく！を銘打つならば、なるべく禁止しなくて良いように考えることも必要だと反省しました。次回の課題です。

絵本の読み聞かせ「ねこのピート」、「あらしのよるに」の音楽朗読、「十二支のおはなし」はパネルシアター。

そして東山公民館ならではの三線でクリスマス。すっかりお馴染みの安土屋ユンタは会場のみなさまのお囃子も入ってすっかり沖縄気分。鈴が鳴ってクリスマスソング。

最後はみんなで歌いましょうコーナー

終わったあとは楽器さわっていいよコーナー

今日一番にざわついてくれた2才の子は、ステージの中での音をよくみて聴いてくれたようで、同じように音を出そうとしている姿に感動しました。



「ガジュマルさんで音楽会」

2024 年 1 月 14 日（日） 14:00～15:00 岡山市北区庭瀬

メンバー参加者:11 人 お客様:10 家族 20 人

直前に主要メンバー西さんの体調不良。心配な面もあったが、メンバーに加え、いつも団を応援して下さる方々のサポートにより、プログラムはそのままで開催。

欠けた穴埋め、ではなく、お一人お一人の力、才能、センスが溢れだしたステージとなった。

ゲスト参加 3 人とも本番にあわせて、読み込んできてくださったことを感じる迫真の朗読。ざわつきがピタリとおさまる場面、笑いがこぼれる場面に、後ろで効果音を担当しながら、ワクワクしてきた。

完成した衣裳もお話の世界を引き立てる。

アットホームな空間で、ステージと客席が一体となる感じイベントとなった。ほとんど寝たきりのお子さんも、横になりながら参加。お母さんが手を添えて一緒に音楽を楽しむ姿があり、どんな方でも参加できるステージをしていきたいと思った。



「京山 ESD・SDGs フェスティバル」

2024 年 1 月 27 日（土） 13:30～14:30 岡山市立京山公民館

参加メンバー:5 人 お客様 15 人

京山みんなのカフェにステージ参加。

(様式第 8 号)

お茶を飲んでいただいているところでのステージは初めてでしたが、参加型の「ももたろう」や「おおきなかぶ」のプログラムを入れ、また、ESD、SDGsのテーマから「ライフ」を読み聞かせに入れました。後半の音楽プログラムも楽しんでいただけたようです。遅れてきたお子さんのために、もう一度演奏。楽しい時間となりました。



にじのねたのしいおんがくフェス

2024年2月23日(金祝) 13:00~16:00 灘崎文化センター小ホール

参加メンバー8人。お客様30組。100人。

コロナから2年、ご依頼いただき、オンラインコンサートをさせていただいてきたにじのねたのしいおんがく。

今年は対面で5グループ参加のフェス。

金星音読団からは、「双子の星」

宇宙から地上に降りてくる音~星めぐりの歌のメロディー~双子の星の冒頭を朗読~星めぐりの歌を朗読とオカリナのかけあい~星めぐりの歌

この15分のプログラムをさせていただいた。

そして次のグループへのつなぎに太鼓が入って、ウッドブロックが入っての参加型の「ももたろう」

演奏前の休憩時間には前に並んだ廃材楽器に子どもたちは興味津々。

楽器にさわれるのも金星らしいところ。

子どもから「どこで売ってるの？」の質問に「学校の給食の缶、工事現場の鉄パイプ…魚屋さんからもらった発泡スチロールに100均で買った隙間テープを貼って…」とネタばらし。

ゴロゴロしたり、立ち上がって踊りだしたり、子どもたちが思い思いの参加で音楽を楽しんでいました。

本当にステキなイベントでした。



2. ESDの視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
コロナ禍が落ち着いて、リアルでのイベントができるようになってきた。オンラインでは一方的に作品を作ってきたが、直接対面で、観客の意反応を感じながら活動を進めることで、聞き手に合わせたステージ構成が必要だと感じている。集中が続かない子ども、お話を聞くことが好きで大人と一緒に聞ける子ども、大人はじっくり静かに聞きたい方。一緒に、を主軸に考えてきたが、それぞれが満足できる、楽しめることも必要なのかと感じている。
② どのように学び合いを取り入れたか
<ul style="list-style-type: none">・参加型に取り組むことで、演者として参加してもらった時の作品を決めて、一般の方に参加してもらった。・公民館では職員さんの得意を見つけて、かかわっていただいた。
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
子どもから大人までどの年代でも楽しめる音楽朗読劇を提供することで、様々な作品の世界に触れる機会を作った。また、幼児や子ども連れの家族が参加しやすいように座席前方は敷物を敷いて座って参加できるようにした。
3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
<ul style="list-style-type: none">・夏に参加された方が、冬の時には廃材を利用できないかと持ってきてくださった。また、宮沢賢治に興味を持ち、他の作品を読むきっかけになったと教えてくださった。1回のイベントからその方の生活に影響があったことがうれしく感じた。・楽器体験コーナーでは、お話の中で使った音をよく覚えていて、同じようにしてみたい子たちが多くいた。保護者の方にも何でできているかをお話した。興味がある方は、親子で制作されるかな？と期待している。・楽しみに続けてきてくださる方も増えてきている。・参加者の年代層が幅が広く、さまざまな年代の方が同じお話や音楽を聴く空間となった。・福祉事業所に声をかけることで、障害を持つお話や音楽に興味のある子の活動として、複数人数連れてきてくださった。
4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）
<ul style="list-style-type: none">・参加してくださる方が、気軽に参加でき、楽しめるようにプログラムを考えていく。・どんな方でも参加が可能になるように考えていきたい。・イベント参加が難しいと思われる障害を持った子たちが、参加できる場となるように考えていきたい。